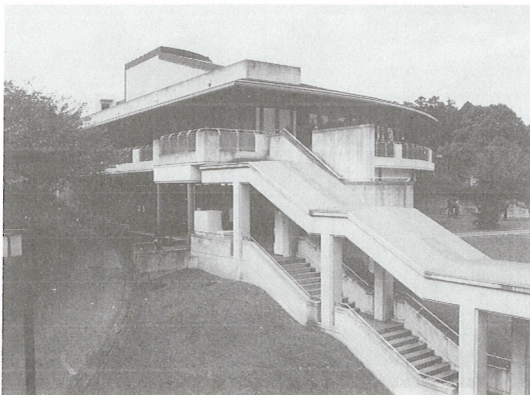
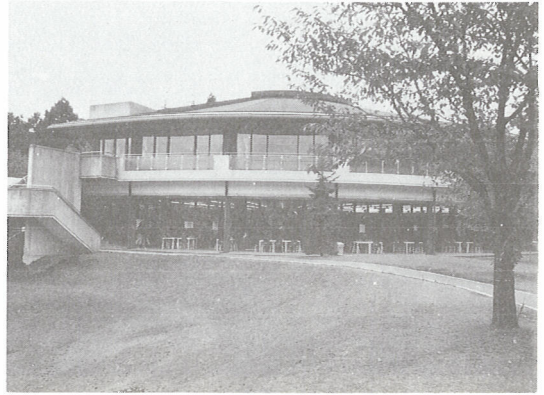


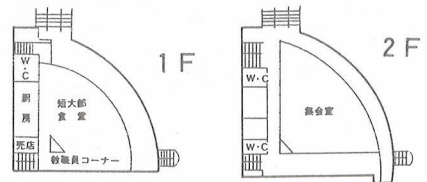
## 役割を終えた集会室

横浜校地の多目的ホールとして機能してきた集会室が来年度より事務室として生まれ変わることになりました。

そこで、今号ではいろいろな催しで親しまれてきた集会室の活躍ぶりを追ってみました。



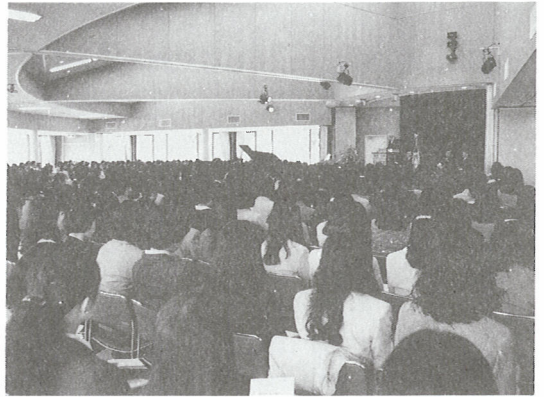
集会室棟



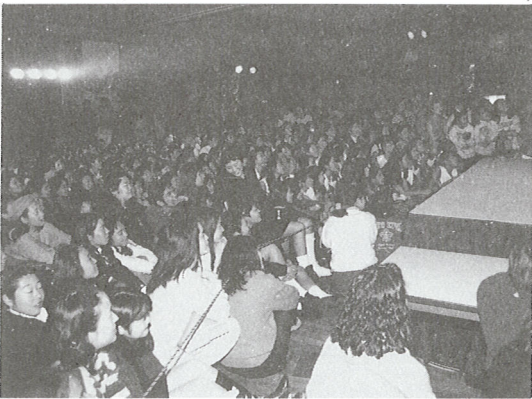
## 集会室のさまざまな利用



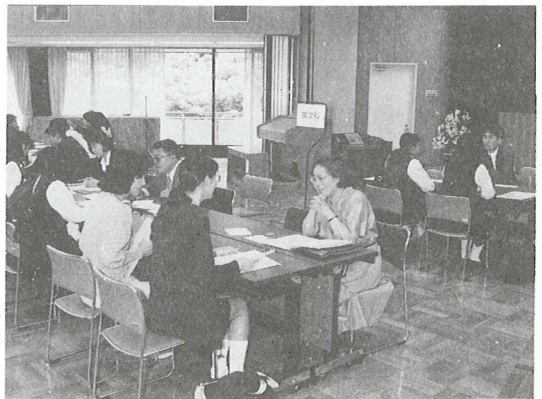
入学式（短大）



入学式（短大）



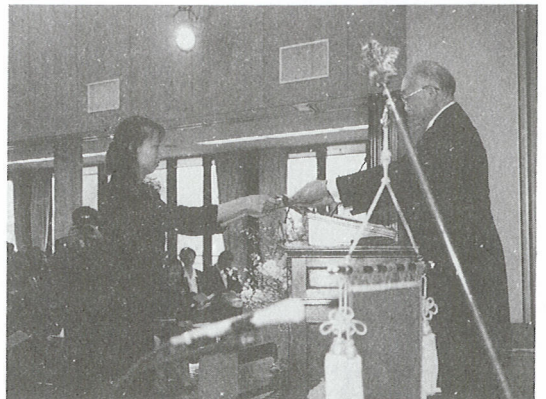
かえで祭



進学説明会



卒業式（短大）



卒業式（短大）

## 文化的催しについて

「文化的催し」は、学生の幅広い視野と豊かな教養の充実に願って、短期大学保育科が行ってきたエクストラカリキュラムを学生部が引き継ぎ、発展させたものです。

また、地域の人々との交流をはかる目的も担っていて、年々地域の方々の参加も増加の傾向にありました。

集会室がなくなってしまったので、今後は別の形で開催できることを願っております。

(学生部)



メイプルコンサート 長岡輝子氏



学生と地域の皆さん

日本の伝統芸能に親しむ 第4回

# 歌舞伎

トーク 『歌舞伎の見方』

歌舞伎俳優 坂東秀調

実演 『女形ができるまで』



6月28日(月) 4時半 - 6時

於 東洋英和女学院(横浜校地) 集会室

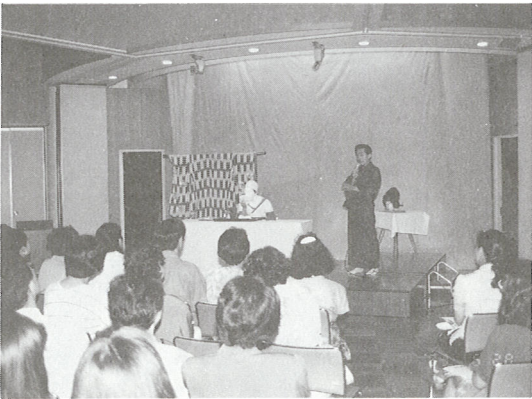
共催 東洋英和女学院短期大学  
東洋英和女学院短期大学学生会



狂言



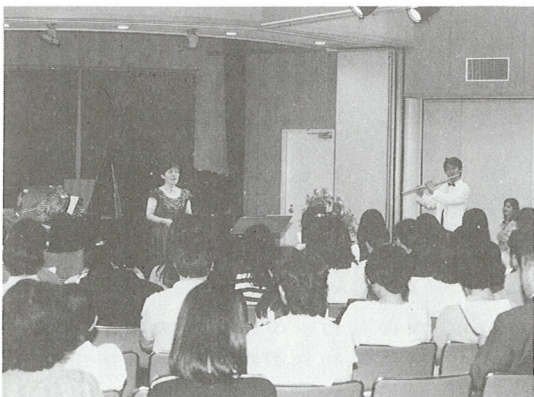
狂言



歌舞伎(化粧法)



歌舞伎(化粧法)



メイプルコンサート



メイプルコンサート

## 集会室での催しもの

### <保育科特講>

1989年1月23日 『ピアノ・独唱等、作品発表』

演奏者 岡本京子 桑原京子 鈴木由香 竹内悦子 長坂淳子 長谷見順子 (以上、保育科非常勤講師)

1990年1月29日 『打楽器による演奏会』

演奏者 有賀誠門 (東京芸術大学音楽部教授) 他

(この後、学生部「文化的催し」に引き継がれていった。)

### <一般教育特講>

1989年5月21日 『神話の中の女性』 講師 三枝和子 (作家)

1990年5月22日 『作家が見た外国』 講師 島田雅彦 (作家)

1991年6月3日 『世界を変える洗濯機』 講師 吉岡 忍 (ノンフィクションライター)

1992年11月16日 『能動的読書のすすめ』 講師 荻野アンナ (作家)

1993年11月15日 『英語アレルギー解消法』 講師 石井苗子 (メディアパーソン)

### <学生部主催文化的催し>

1990年11月26日 『箏・三絃・尺八 鑑賞会』

出演 吉岡龍見 (吉岡邦楽社主宰) 富元清英 (生田流箏曲師範・野川流三絃師範)

1991年6月17日 『日本舞踊について 男性から女性への変身』

出演 西川 均、西川祐子 (宗家西川流所属師範)

1993年6月28日 『歌舞伎の見方』 『女形ができるまで』

出演 坂東秀調 (歌舞伎俳優)

1994年6月27日 狂言『じゃじゃ馬馴らし』 『棒縛』

出演 和泉元彌 (狂言師) 和泉淳子 (女性初の狂言師)

### <クリスマスコンサート>

1986年12月5日 『中高部ハンドベルを迎えて』

出演 聖歌隊と河野和雄 (小型パイプオルガン)

1987年12月11日 『ハレルヤコーラス』

Trumpet 橋本 洋 (日本フィルハーモニー管弦楽団)

Organ 榎 昭子 (宗教部職員、オルガニスト)

1988年12月16日 『“メサイア”より 短大聖歌隊+管弦楽部』

Violin 山田みどり、川俣洋子 Harp 大塚仁子

1989年12月15日 『聖歌隊+管弦楽部』

Harp 中村由美子 Violin 中村明人

1990年12月14日 『聖歌隊+管弦楽部』

Organ 河野和雄 Hand Bell 中高部

(1991年度からは、横浜校地礼拝堂で開催するようになった)

### <メイプルコンサート (スタンウェイコンサート) >

1992年5月25日 『ピアノ・歌 (独唱) コンサート』

演奏者 鈴木由香 竹内悦子 桑原京子 高野雅子 (保育科非常勤講師)

1993年5月28日 『ピアノコンサート』 演奏者 永富和子

1994年10月21日 『朗読とピアノ』 朗読 長岡輝子 ピアノ 小高惇忠

1995年7月7日 『爽やかな夏の夕べに』

演奏者 鈴木由香 竹内悦子 鈴木大介 (保育科非常勤講師) 飯島千雍子 (保育科教授)

## 教室として使われた集会室

大学では開学3年目の1991年度には臨時定員増によって、入学定員が、それまでの200名から300名になった。そのために大幅な教室不足が生じ、1992年度に大教室棟が完成するまでの1年間、緊急措置として集会室が教室として使われたのである。

尤も、その前年の1990年度にも、心理学概論の授業を集会室で行おうとしたことがあった。それは、このクラスが200名になってしまったために、それだけの人数を収容できる教室が他になかったからである。急なことでもあり、その年は、机に代わるものとして画板を用意したが、学生の評判が悪く、集会室の使用は中止せざるをえなかった。

教室としての使用が避けられない1991年度には、机を購入した他、ビデオ設備も入れられ、集会室に

も教室としての機能がほぼ整った。

水曜日に法学と憲法、木曜日に政治学、教育学、社会心理学、金曜日に理論経済学Iと、計6科目の通常の授業の他、火曜日の横浜市民講座、年に5回のトップセミナーも開かれた。

ところが、集会室は他の活動にも使われるので、机を常時セットしておくわけにはいかない。したがって、職員たちは、机を片付けたりセットしたりという作業に追われ、これに当たる特別編成隊まで組まれたという経緯もあった。

ちなみに、大学では開学2年目までの入学式も集会室で行った。集会室は、大学にとっても、まさに多目的ホールであった。

## 健康相談室雑感

大学健康相談室 住吉純子

開学して3年目、学生数900人足らずの本学、健康相談室に就任して5年目を迎えている。私と同じ1年生として4月に入学した330余名の学生達はこの3月、3期生として卒業していった。そして、本学も現在は1850余名の大所帯である。

健康相談室の業務は、新学期に行う定期健康診断と日々の応急処置、それと健康相談を大きな柱としている。健康診断では最低限の心身両面でのチェックが当然必要となるが、時代の流れの中、求められている役割は大きく変化している。感染症といえば結核よりエイズ、さらに性教育であろうし、栄養指導といえば、摂食障害による拒食・過食、飽食による肥満、過度のダイエット等に対する対応がむしろ主となってきている。大学生を対象とした保健管理を担当する看護者の立場としては当然、精神面での

かわりを基本にした相談業務の占める割合が大きくなっている。

「保健室ってここのことですか？」と尋ねながらドアを開けて入ってくる学生がいる。「健康相談室」という名称がつけられた経緯について詳しくは知る由も無いが、何か特別の思いが込められているように思う。単なる靴ずれの手当や腹痛、風邪などへの対応をしているうち、思わぬ方向へ進展して行くこともある。日常生活でのささいなこと、驚いたこと、感動したこと、悔しかったこと、残念だったこと、嬉しかったこと、楽しかったこと、何事も屈託なく、あっけらかんとして話す。また、ゼミの取り方やカリキュラムの組み方、先生や学校への不満、人間関係のもつれ、恋愛問題等々。

ドアの外から中にいる人の気配や周囲の人の動き

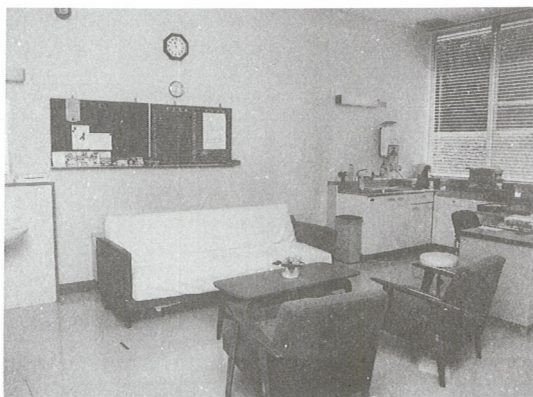
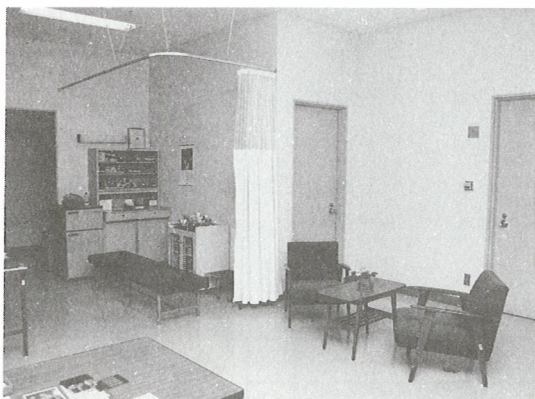
を気にしつつ入って来る学生もいる。当然、相談の内容は深刻なことが多い。多いと書いたのは、単に知識が無いだけで独りで深刻になっていることがよくあるから。そんな場合はほんの少し話を交わすだけで、ついさっきまでの深刻な顔が嘘のように明るくなって帰って行く。日々、学生達に接していると、本当にここは学生達にとって教室でもなければ、事務室でもない、自分の家でもない、そんな場所なんだなとつくづく思えてくる。そして、私との出会いのほか、学生、クラスを越えた学生同志の出会いの場所にもなる。

「ひとは誰でも名カウンセラーになれる」、と私は考えている。夫婦、親子、兄弟、友人、同僚、師弟etc. しかし、健康相談室という専門的な立場として医療の援助が必要と判断される場合は、躊躇することなく受診を勧めなくてはいけない。それは、身体の場合も心の場合も同じこと。そして、「適切な受診」に結びつけるために非常に心を砕く。受診に際しての本人の同意は勿論だが、個々の学生のお

かれている様々な条件、住所、自宅通学か独り住まいか、両親の価値観・理解度、親子関係の良さあし、授業との関係、受診する医師との相性、受診後の連携等々。いくら受診の必要性を説明して、本人の同意を得て医療機関に結びつけても、このような条件が満たされていないと良い結果を得ることが難しい場合が多いし、健康相談室での出会いを我々としては、できるところまで大事にしたいから。

短期大学部との統合で、来年度からは健康相談室も現在の短大の健康相談室を拡張し、設備を充実させ1カ所で運営されることになる。学生、生徒、および教職員を含めた健康管理については、今後も大学だけではなく、東洋英和女学院全体として、内容の充実を伴う変化が続いていくものと思われる。これまで以上に、立場を越えた人と人が支え合い、ひとりひとりがその人らしい生き方ができる。日々の仕事の延長線上のこととしていつもそんなふうに考えている。

## 新しい健康相談室



# 短大健康相談室の利用状況（1989年度から1994年度まで）

短期大学部 健康相談室 尾花 智子

就任して7年目となるが、様々な理由で健康相談室を訪れる学生と日々かわってきた。症状を訴えて何らかの処置を求めてくるもの、身体的、精神的あるいは社会的問題を抱えて相談にくるもの、その他身長・体重・血圧の測定を希望したり、また衣服の汚れ、修理、爪切り等家庭の延長の場として利用するもの等多種である。

表1 処置を求めて来室したもの（訴え別に分類）

年 度		89	90	91	92	93	94
内 科 的 な も の	風邪に伴う諸症状	68	80	89	105	119	150
	頭 痛	31	43	38	40	45	51
	気分不良・全身倦怠	39	28	27	41	32	24
	胃 腸 症 状	79	93	69	96	75	92
	月 経 随 伴 症 状	88	72	110	88	70	85
	そ の 他	3	3	10	7	4	3
外 科 的 な も の	擦過症・切傷・靴ずれ	126	139	143	143	125	88
	打撲・捻挫・つき指	25	43	37	40	41	42
	筋肉痛・関節痛・腰痛	9	15	16	8	11	5
	湿疹・他皮膚疾患	15	10	5	11	6	18
	虫 さ さ れ	13	13	9	5	6	10
	そ の 他	4	12	10	7	7	7
眼 科 的 な も の		17	15	24	14	20	10
耳 鼻 科 的 な も の		5	4	6	13	11	3
歯 科 的 な も の		10	14	5	10	13	2
合 計		535	584	598	630	585	590

表2 相談のために自発的に来室したもの（相談の内容別に分類）

年 度		89	90	91	92	93	94
内 科 的 な も の		48	32	19	39	25	82
外 科 ・ 整 形 外 科 的 な も の		9	15	18	16	12	40
婦 人 科 的 な も の		14	32	22	59	32	68
精 神 的 な も の		14	14	29	50	31	4
そ の 他		20	38	59	55	46	14
合 計		105	131	147	219	146	208

1989年度から昨年度まで6年間の健康相談室の利用状況について、来室目的別の利用数に若干の説明を加え簡単に報告する。

処置を求めての来室を訴え別に分類したものが表1である。全体的に、在籍学生数は年々減少しているのに来室者は増加している。また1年生に比べ2年生の来室は2/3に減少する。内容からみると、風邪、月経随伴症状、簡単なケガが多い。医療機関への緊急引率例は減多になく、殆ど保健処置の範囲で対応している。従って、内服薬の使用時や外傷の手当等、保健指導の良いチャンスと考えている。十分に手をかけることで精神的な問題が明確になり、相談へとつながる場合もある。

相談の目的で来室したものを、その内容別に分類したものが表2である。表から相談内容を読み取りやすくするため、昨年度より、分類項目を変更している。相談目的の来室も、年毎に増加傾向であるが、こちらは1・2年生ほぼ同数で、90年、94年はかえって2年生に多くみられた。内容は病気や外傷の対処方法や受診の要否についての相談が最も多く、次に性格、恋愛、進路、家族関係等自己の精神的問題で、これは1人が2～3回か10回以上の来談になることもある。また同等に多い相談は月経・妊娠に関するもので、個人的性教育の場として有効である。

健康診断の事後措置としての保健指導や検査等、呼び出しや予約に応じた来室は統計から除いているが、毎年500～600人程度春に集中する。